

パネル討論

日本のアーキテクチャ研究に対する期待 ～産業界の視点から～

パネリスト(50音順):

木村 浩三	(パナソニック株式会社)
木村 康則	(富士通株式会社)
後藤 厚宏	(日本電信電話株式会社)
吉森 崇	(株式会社東芝セミコンダクター社)

モデレータ:

中村 宏	(東京大学)
------	--------

概要:

アーキテクチャ設計は、あらゆるシステムにおいてその構成を決定する上で極めて重要な作業である。特に、コンピュータシステムにおいては、半導体技術の進歩やインターネットの普及などの、シーズとニーズの急速な変化に対応し、「センスあるアーキテクチャ」を早期に決定することが成功への鍵となる。本パネルでは、産業界から「いまをときめくキーパーソン」にパネリストをお願いし、アーキテクチャ研究に対する期待を述べて頂く。そして、技術、経済、国際貢献、など広い視点から、日本のアーキテクチャ研究における課題や今後10年の方向性を議論する。